

# 心の原風景 —我が母校—

## 佐渡市立加茂小学校

「♪じやんにきせる ふとぬーのばやんにきせる ふとぬーのちんからかん とんとんとん♪」

闇に包まれた体育館の中、スポットライトに照らされた児童の独唱で「夕づる集会」は幕を開けます。今年度30周年を迎える「夕づる集会」は、30年前の音楽の研究会後に、「学校生活に潤いと活力を」という職員の願いから生まれた全校児童で演じる音楽劇(オペレッタ)です。原作は、北片辺に伝わる「鶴女房」を、劇作家木下順二氏が戯曲にした「夕鶴」です。「夕づる」は、それを関係者の許可を頂き、児童向けに編集したものです。

「夕づる集会」は、在校生だけでなく卒業生にも母校の象徴的な存在として心に深く刻まれています。

今後ともふるさと佐渡を愛し誇りに思い、大きく羽ばたけるよ



夕づる集会

う、一層の充実を図っていきます。今年度は、11月24日(日)午後、加茂小学校の体育館で行います。多くの保護者、市民の皆さまの参観をお待ちしています。



学び合う授業

今年4月、加茂小学校は浦川小学校と統合し、新たな歩みを始めました。加茂小学校の教育目標は、「ともに高まり合う子」です。浦川小学校の教育目標は、「磨く、磨き合う」でした。ともに子どもたちの「学び」を願っています。それらを受け、本校では、『どの子も伸びる、学ぶことが楽しい学校』を目指しています。授業を通して「考えを深めます。授業を通して「思いやりの子」、学校生活を通して「思いやりのある子」、家庭と連携し「健康的な生活をする子」の育成に取り組んでいます。

特に、「学力を身につけることは将来の可能性を広げることができると言われています。毎年の卒業文集に、「将来の夢」の欄があります。将来の佐渡を担っていく子どもたちの夢を表現できるようにするため、質の高い授業と学習習慣の確立を通して学力の向上に努めています。

### ◆教育委員会学校教育課

(両津支所内) ☎23-4898



佐渡をジオパークに

## ジオパーク、推進日記

29

### 『審査員がみた、佐渡のジオパーク!』

7月31日と8月1日の2日間、日本ジオパークの現地審査を受けました。審査に訪れたのは3名の審査員です。

審査員らは、小木半島や相川金山などを巡り、整備状況や受け入れ体制などについて確認していました。現場では、認定ガイドや小中学校の生徒などが島の成り立ちと人の営みの関連性などを説明し、審査員も感心する場面が見られました。また、現地の草刈りや審査員の見送りなどに、大勢の市民の方々に携わっていただき、無事に審査を終えることができました。今回の現地審査の結果は、9月下旬に発表されます。

審査員からは、「金山とトキ以外にたくさんのお宝があるのには驚いた」など、ジオパークを運用するために必要な豊富な材料について好評価をいただきました。しかし、一方、それらの材料を活かすストーリーが確立されていないことも指摘されました。特に、地質の学術的な視点と一般的な視点に大きな隔たりがあることを指摘されました。これは、佐渡のジオパークを市民がもっと楽しむため、また、島を訪れた人たちが佐渡のジオパークが何を表現したいかをわかりやすく理解してもらうための指摘です。



審査中、地元ガイドと会話が弾む場面も

の恵みに気付き、地球とうまく付き合える人を増やし、いつまでも続く地域作りを進める。』ことです。この目的を果たすため島民が身近にある宝物を使ってジオパークを進め、島の活性化につなげていくことが求められるのです。

今後は、主役である地域の皆さんと相談しながら、佐渡のジオパークを選んでもらえる魅力的なジオパークづくりのため、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

### ◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)

☎23-2101